



みずの さち
水野 佐知 議員

補聴器購入助成

申請しやすい体制を 悩みや不安ある方は役場へ

問 今後、補聴器の購入助成をどのように行っていくか。

また、助成の要件や助成の人数は何人を想定しているか。

加えて、対象者は、コミュニケーションに困っている方達だが、申請しやすい体制をどうやって取るか。

答 野村健康福祉課長

令和7年度に実施できるように、介護保険特別会計で予算計上している。対象者は、65歳以上非課税世帯で聴覚障害の手帳の交付を受けていない方。

また、耳鼻咽喉科の医師から中等度難聴で補聴器の使用の必要性を認められた方が対象で、購入費の2分の1助成で上限は5万円。予算上では30名を見込んでいる。

申請については、悩みとか不安がある方は、健康福祉課の窓口までお越しいただければと思う。



地域住民の楮のへぐり作業（令和7年1月）



地元小学生のへぐり作業体験（令和6年6月）

和紙工房

地域課題への具体的方策は 地域と行政、関係機関と協議

問 地域おこし協力隊をどう活用していくか。

答 河村地域住民課長

現在、活動している方は、平均80歳代で、後継者不足が喫緊の課題となっている。

業務は、楮の栽培から紙原料作り、紙すき等の事業継承、集落活動センター佐賀北部の楮部会のコーディネートなどを行う予定で、3年間の任期満了後は、自発的な思い

を持ち、運営と農業などに活動することを想定している。

問 活動の停滞や後継者づくりなど、喫緊の課題が多くあるが、それについての具体的な方策はあるか。

答 河村地域住民課長

地域と行政、関係機関が課題を共有し、考えていく必要がある。

拳ノ川小学校では、教育プログラムの中で、卒業証書を和紙で作る計画を立て、楮の栽培から刈取り、蒸し剥ぎ、へぐりまでを体験している。また、高知大生も、地域や小学生と一緒に活動している。

こういう活動の中から地域に愛着を持ち、地域資源を守る気持ちを育て、その結果、若者が地域に残ることに結びつけていきたい。

課題を整理し、今後の展開を関係者と協議しながら取り組んでいく。